

# 鉈屋町 町内会だより

## 大慈寺小学校 地域学習会

大慈寺小学校教職員の方々の地域学習会が、6月30日に行われました。今年も講師は町内会顧問の大坊公一さん。  
町家物語館前に集合し、町内を歩きながら見学と解説を行います。



不定期発行  
発行者  
鉈屋町町内会  
編集 / 文責 / 撮影  
桂 汎用工房  
脇田 桂一郎  
印刷  
小松総合印刷  
株式会社

北上川沿いに出て、舟運の起点であった新山河岸、新山舟橋、旧明治橋などのお話。  
北上川の舟運は、明治23年の東北本線の開通により、終わりを迎えます。



川原町に入ります。  
現在で言えば国道4号に相当する街道でした。道の広さと、両脇に並ぶ大きな町家が、当時の繁栄を思い起こさせます。



円光寺にお参りし、夫婦から、米内光政のお墓や、処刑された父の首を盗み出して供養したお蓮の伝説を伝える首塚などの説明が続きます。



工藤薬局さんの裏あたり。  
ここは北上川の旧河川で、その名残りの水路や、土橋があった十字路です。  
昔は郵便局や、九十銀行の支店などもありました。



そして表にまわって、旧森商店の前へ。森荘已池との関係などを話したのち、盛岡城下の惣門とくろわや遠曲輪堀などの解説。





また先程の北上川旧河川の岸は、このすぐ裏にあり、石積みの護岸が残っています。



寺の下に入ります。

千手院前で撫でベコの話をして  
いるうちに、雨が降り出しまし  
た。急ぎ足で小学校に戻ります。  
学校で大慈清水などの補足説  
明をした後、終了となりました  
が、まだまだ聞き足りないこと  
もあるようで、先生方から追加  
説明のリクエストもありました。



### 春の清掃と表彰状

6月5日に予定されていた春の清掃は、各自宅周辺の自主的清掃に縮小されました。最近では感染者も減少の方向にあるので、次回あたりからは、いつもどおりに開催できるのではと思います。

それと並んで、長年に渡る神子田わかば公園の清掃作業が認められ、鉈屋町大慈寺町子ども会育成会に、表彰状が送られることになりました。いつもご協力してくださる皆様、ありがとうございます。



### 盛岡での子育てってどう？



子育て支援団体である、いわてUmiのいえ主催による「盛岡での子育てってどう？」が、6月29日に幸ミ町家(旧佐藤青果店)で行われました。



妊娠・子育てによって変わっていく心と体、そして生活に関して、みんなでいろいろ話していこう、という趣旨のようです。  
当日は実際に子育て中のお母さんを中心として、育児問題に関心のある議員さんなども出席されていました。



ちよつとした体験談から始まり、様々な意見がおしゃべり感覚で出てきます。中にはかなり本音のあふれたお話もあつて、すこしどきつとすることも。

悩んでいるのは自分ひとりではない、ということを確認できるのは、大切なことかもしれない。



### こども縁日と 山車の太鼓

6月26日、「Dining わんたんか・I LOVE 実行委員会の主催により、もりおか町家物語館で行われた THE GREAT SPIRITS 音楽祭に合わせて、風の広場では「こども縁日」を主体としたイベントが行われました。



屋台も出るようだったので、お昼代わりになにか食べに行こうと思ったらずいい人出です。鉾屋町でこんなに人が集まったのを見たのは何年ぶりでしょう。



縁日の中には「10円祭りコーナー」がありました。以前十文字稲荷でのお祭りにあった「10円市」を復活させたいという方が主催者の中にとのこと。



今回もイベントに合わせて、め組山車庫が開放され、山車に乗って太鼓叩きが体験できました。子どもたちの中には、太鼓やお祭りが本当に好きな子がいて、縁日に行ってもまた太鼓を叩きに帰ってくる子もいました。



また、上手な子が叩くと、そのリズムに惹かれたかのように、町家物語館のイベント会場から人が集まってくるのが面白かったです。盛岡人のDNAに刻み込まれているのでしょうか。みんな太鼓を叩いているときの表情がとても良くて、見ている方も嬉しくなります。



今年も秋祭りは、限定された状態で行うようで、町中を練り歩くのはまだ見られないようです。山車の製作者や参加者の不足も言われているようですが、この子達をみると、まだ大丈夫といった気もします。あと、2分団にも入ってね。





### ながいた 長板つてなんだ？

佐々木龍大さんの工房の前を通ったら、なにか妙に長いものが置いてあるのに出くわしました。飛行機の翼？というより、直線的で長いので、グライダーやヘリコプターの翼のようにも見えます。



これは「ながいたちゅうがた長板中形」という型染めを行うときに用いる「長板」だそうです。長さは約7m、材質はモミの木の1枚板。この上に布を貼り付けて、型で糊を置

きます。折り返して裏面も使い、1反(約13m)をこれ1枚で仕上げます。

和服の洗い張りに使う、「張板」に似ていますが、あれよりもっと長いものです。



元々は雫石町の染物屋にあったもので、それを保管していた仙北町の方から譲っていただいたそうです。

現在この板は修理中で、龍大さんは今後、この長板を用いた型染めに挑戦してみたい、とのこと。

### 編集後記と

### 朝顔日記 2022

6月後半は夏の天気が続き、かなり日焼けしました。

6月18日に行われた、北上川舟運フェスタに合わせて町家物語館にきた、ボンネットバス。



6月27日の三面地藏様は、今年も静かに佇んでおりました。



そして今夏も「あき顔プロジェクト」が始まりました。



うちも、第一段階は準備完了といったところです。(桂)

